



人生に寄り添う 図書館

● 問合せ 市民図書館 (☎ 23-4646)

新年あけましておめでとうございます。今年も、伊万里市民図書館をよろしくお願い申し上げます。

「高齢者の身体年齢は若くなっております。今年も、伊万里市民図書館をよろしくお願い申し上げます。」
「高齢者の身体的能力も高く、65歳以上を一律に『高齢者』と見るのは、もはや現実的でない」。平成30年に、首相を議長とする人生100年時代構想会議が出した『人づくり革命基本構想』の中の一文です。高齢者から若者まで、すべての世代の人々が、元気に活躍し続けられる社会を創るには、幼児教育の充実から、高齢者雇用の促進に至るまでの人材への投資が、重要だとされています。

公共図書館は、あらゆる市民に対して、本を通じたサービスを提供すること、個人の学びを支援する社会教育施設です。そのため、人が生まれてから亡くなるまでの、それぞれの発達段階ごとに、必要な情報や知識を準備して、市民の皆さんの『人生に寄り添う図書館』でありたいと願っています。

なんと大きな！と思われるようなので、まずは、正月らしく『人生すごろく・図書館編』を作ってみました。常連の人にとっては、すでに知っていることばかりかと思いますが、初めての人もいるでしょうから、気楽にコマを進めながら図書館のサービスを知ってもらい、「今年一度くらい、図書館に行ってみようか！」そんな気持ちになっていただけたら幸いです。

市民図書館は、人生の
さまざまなシーンで、
利用されているんだね



楽しいイラストが
壁を飾る
ヤングコーナー



17

16

入賞して
表彰式に出席
(ジャンプアップ 18へ)

15



図書館を使った
調べる学習コンクール

14

13

本の世界で
タイムリープ
(スタートに戻る)

ふりだし!



さいころを振って、出た
数字の数だけ進むよ!

1

2

【赤ちゃん】

初めての絵本との
出会い



3 ブックスタート

4

【小学生】

子どもたちも
手際よく学級貸出



12

ゼロいちに
『おはなし012』
コロナ禍で中止のため
1回休み

5

11

6

おはなし会

のぼりがまのおへやに
おはなしキャラバン登場



10

保育園にぶっくんが
来たよ



7 【園児】

9

8

初春

人生すごろく

図書館編

読書席で受験勉強



【中学生】

21



福祉喫茶あおぞらで
お腹いっぱい大満足
1回休み

20

19

18

あがり!

大活字本

目の見えにくい方にも
読みやすいように、
大きな文字で書かれています。



孫と一緒に図書館に 絵本と大活字本

※詳しくは6ページに掲載

22

【成人】

レファレンス

仕事や恋の悩みを
本で解決



23

古い本の中から
知りたい情報を
発見

(ジャンプアップ
32へ)

2階書庫は 『宝の山』!



33

32

31

30 図書館で 生涯学習



24

子どもが生まれて 絵本コーナー



もうすぐ、ゴール!

29

25



26

27

28

古本市

素敵な仲間と ボランティア





人生すぐろく・図書館編は、楽しんでもらえましたか。孫と一緒に図書館に行くところで、すぐろくはあがりとなりましたが、その後の人生にも寄り添うため、図書館では高齢者向けの本や資料をたくさんそろえて、遠隔地でのサービスも展開しています。

会いに行く図書館



自動車図書館の巡回場所と日時は、図書館のホームページで確認してください。

自動車図書館『ぶつくん』

図書館に来ることができない人のために、自動車図書館が3週間に1回の間隔で、市内各所を巡回しています。また、13地区のコミュニティセンターにも立ち寄りますので、借りた本は、コミュニティセンターに預けることで返却になります。

※コミュニティセンターの受け付けは、平日午前8時30分～午後5時です。



バリアフリー読書

『大活字本（だいかつじほん）』
読んで字のごとく、活字が大きい本のことを指します。実際の文字の大きさを比べてみてください。

「この書き手は外国語に堪能だ。まるで、翻訳しやすい本人か、この筆者は」
「もちろん」

■一般的な単行本 文字の大きさ 約9ポイント

■大活字本 文字の大きさ 約22ポイント

「この書き手は外国語に堪能だ。まるで、翻訳しやすいように配慮したかのような文章だ。日本人か、この筆者は」
「もちろん」

参考資料

- ◆単行本 『落陽』 朝井まかて／著 祥伝社
- ◆大活字本 誰でも文庫『落陽』1巻
特定非営利活動法人大活字文化普及協会

このように活字が大きくなって、とても読みやすくなっています。単行本や文庫に書かれている文字の大きさでは読みにくかった人にも、改めて読書を楽しんでもらえることでしょうか。

市民図書館には、現在、約1800冊の大活字本を所蔵しています（12月現在）。

活字が大きくなったことで、本の分量は増えます。単行本では1冊のところ、多くの大活字本が2～3冊、長編であれば5冊程度に分冊されています。

読みたい作品があったら、単行本か大活字本にするかを確認して、図書館員に申し出てみてください。

『あいさが』との連携

視力が弱っている人には、大きな活字の本をお薦めします。また、目が不自由な人も佐賀県立視覚障害者情報・交流センター『あいさが』と連携することで、点訳した本や音声資料のCDを図書館に取り寄せ、借りることができます。詳しい内容は、市民図書館にお尋ねください。



↑プレクストーク（視覚障がい者用ポータブルレコーダー）も用意しています

～本とともに～



市民図書館
館長 こうがみ 鴻上 哲也

人はだれしも年齢を重ねてくると、だんだん本を読むのが億劫おっくうになってきます。視力が衰えたり、集中力や意欲が低下したりするからです。ところが、ある研究で読書中の脳の様子を調べたところ、読解力や記憶力といった認知機能が活発に働いていることが分かりました。つまり、読書を続けることは認知症の予防に大いに役立つというのです。また、読書のために図書

館に通われる方々は、気の置けない仲間や図書館員と本について語り合うことで、人と人との交流も楽しんでおられます。まさに、高齢者にとって図書館は、健康寿命を高めるうえで大切な役割が期待されていると言えるでしょう。大活字本や朗読CDなど、バリアフリーの資料も充実してきています。どうぞ気軽ににお立ち寄り、ご利用ください。



常連さん
今泉 かずと 和人さん 77歳
(東山代町国見)

63歳で退職し、時間にゆとりができてから、市民図書館に通うようになりました。借りていく本は、歴史小説が多いです。戦国や幕末期は、日本が大きく動いた時代。本の中で時代を超えて、当時の人々に出会う。その時代の人々の考え方を知るのが、とてもおもしろいです。最近は、趣味の山岳関係の本を読んでいます。読んでいくうちに、さまざまなきが気になって、

その事をまた本で調べる。図書館司書が、一緒に本を探したり、調べてくれたりするので助かっています。また、こうした触れ合いが、図書館に行こうと思わせてくれます。図書館は、本を選ぶ楽しみがあり、目の前に好きな本がある居心地が良い場所です。そして、本を読むことで、一生のうち体験できないようなことまで経験できて、世界が広がります。



伊万里をつくり
市民とともにそだつ
市民の図書館

これからも
あなたとともに歩む
市民図書館